

2021年9月1号 いのちを守る教育を！ 平和憲法を護る！ 原発強化の炭素政策反対！



# 無所属クラブ コロナ対策を緊急要望

## 柴橋市長へ9月1日に提出

9月1日に、岐阜市議会無所属クラブは、市長へコロナ対策の緊急要望を提出（本年に入り2回目、第1回は6月2日）しました。感染者は連日300人（県）を超え、岐阜市内の感染者も人口比1/5でなく、1/3にもなる日が現出。本庁舎でも感染者報告が増え、伴い全庁舎消毒も増えました。要望書は以下のとおり。

### 新型コロナウイルス対策に関する緊急の要望

- 1 自宅療養者が、自宅で重篤な状態に至らないよう施策を強化すること。
- 2 軽度の自宅療養者が、外出しない事態を担保するために、きめ細かい生活支援策を行うこと。
- 3 自宅療養の現状を、早急に解消し、自宅療養ゼロに復帰するよう施策を強化すること。ホテル療養施設の確保に努め、ビジネスホテル、シティーホテル、健保共済組合関連等の宿泊施設なども確保し、自宅外の療養施設の拡充に努力すること。
- 4 いわゆる「野戦病院」型施設も開設し、自宅療養ゼロへの復帰時間を早めること。
- 5 ワクチン接種については臨機応変・効率的な接種計画確立に努力すること。市民へ、その情報を分かりやすく伝達すること。
- 6 各種イベント開催の中止・延期判断は、迅速に行ない、関連担当者のマンパワーを感染防止関連へ効率よく配置すること。感染防止へ予算・人材を集中すること。
- 7 病院医療関係者への20万円支援策が実行されました。感染拡大で、医療現場は勿論繁忙ですが、保健所現場の繁忙がその前に現出しました。他の保健所設置市等と連携をとり、国への「保健所支援策」創設要望を行われること。

(うら面へつづく)

連絡先 岐阜市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

- 8 市役所関連の千人規模職場でも職員努力で、感染を抑えられてきました。しかし、本年に入ってから感染拡大はこの努力を超えるものです。感染者発生現場を点検し、注意喚起が職場全体に行き渡っているか、職員・家族を守る事が「市民の命を守る」ことに繋がると、今一度点検の機会を作られること。感染現場・家庭感染状況の分析を行ない、教訓を共有化すること。啓発・宣伝物の掲示等を充実すること。

以上

## 「帰省判断」対策は十分だったか？

7月21日岐阜新聞に「県『帰省判断、慎重に』夏休みの感染対策決定」の見出しで、7月20日の県新型コロナウイルス対策本部員会議での決定を報じています。「帰省に伴う家族間での会食が昨夏の感染拡大につながった経験を踏まえ、慎重に帰省を判断するよう求めた。対策の実施期間は22日～8月31日。」と。

8月初め、教員が帰省した自分の子どもから感染した事例があり、学校指導課長に「注意喚起が必要」ではと指摘しました。その際「指導課長名で感染防止文書を出しているのですが・・・」（指導課長）の会話がありました。課長名でなく「教育長名で發文しなくては、教員には理解しにくいのでは」と指摘し、教育長にも伝えました。

しかし、8月お盆すぎ、20代教員の感染が報告されました。居住地の近くに実家があり、お盆時の会食があったと思われるとのこと。7月20日の県感染者14人が、今300人を超え、自宅療養者も拡大しました。

## 民間企業の経営者から、従業員指導が有効では

市内を回ると、民間企業の入口にはアルコール消毒のボトルが置かれています。社員の感染事例も聞きます。企業にとっては事業継続に係る問題でもあり、苦心しされてみえます。以前、民間の人事異動時期の前に『異動を抑制』する工夫を御願いすべきと指摘しました。『帰省判断対策』でも、企業対策を商工会議所等を通じて、7月段階に企業回り等（感染防止対策宣伝）を丁寧に出来ていたか。点検の必要があるようです。

## ちぐはぐ 政府の人流対策

これだけの感染状況ですが、パラリンピックの学校観戦が実行され、心配されたとおりコロナ感染者が出ました。確固たる感染防止の意思が日本国政府に感じることは困難。県内高齢者のワクチン接種レベルは、全国トップレベルです。福井県の野戦病院開設など自治体の力量が問われる時です。自治体でできる事を、時を移さず実行しなければなりません。指示待ちではダメです。「ねんりんピック中止」だけでなく、「9千人のエンジンゼロワン」の判断も必要です。



松原のりかず  
☎058-253-2500